

Actions アクションズ

若手医師活動報告

医局のオンライン勉強会

手稲ネフロクリニック
はま だ あき
濱田 華

私は生まれも育ちも札幌ですが、大学は慈恵医大を卒業しました。その後、地元の札幌へ戻り、手稲溪仁会病院で初期研修を終え、再び東京へ戻り、慈恵医大の腎臓・高血圧内科へ入局しました。

慈恵医大の腎臓・高血圧内科は、現役の教室員が130名と非常に大きな医局であり、初期の腎臓病から透析、腎移植、腎臓再生医学までの全ての腎臓病学を学ぶことのできる、日本でも数少ない教室です。指導医にも恵まれ、出産、育児を経験しながら何とか大学院を卒業し、再び臨床と研究を進めていこうと思っておりましたが、個人的な事情により子供たちを連れて札幌へ戻ることとなりました。軌道に乗りつつあった研究を手放して戻らざるをえない状況となってしまったことは、断腸の思いでしたが、子供たちのことを考えると止むを得ない決断でした。

札幌に戻ってきてからは、子供たちが寝静まった夜に涙を流すことも少なくありませんでしたが、いつまでも後悔ばかりしては、前に進むことができません。手稲溪仁会病院で初期研修時代にご指導いただいた腎臓内科の滝沢英毅先生のご紹介で、(医)ネフロハスの向博也先生の下で復職させていただくことになり、現職に至っています。

これまで、あらゆる研究会、学会は現地に行かねば参加できないのが当たり前で、札幌へ戻って来てからは、子育てに多忙なのと、物理的に東



子供達も大きくなってきたので、最近よく鉄道に乗って旅に出かけます。私の大好きな場所はどこもかしこも廃線の危機にあり、とても残念です。

京から離れた場所に居るので医局と疎遠になりつつありました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行をきっかけに、オンラインでも勉強会、研究会、学会に参加できるようになったのは、非常に有難いことです。お陰様で、札幌に居ながらも医局の勉強会に参加したり、医局員が発表する講演を聞くことができています。

医局の勉強会では、若手の大学院での研究発表や上級医のレクチャーだけではなく、学会発表のための予行などです。医局の重鎮とも言える70代、80代のOBの先生からの鋭い指摘や忌憚のない意見が飛び交うのは、医局の勉強会ならではだと思います。

今回、北海道医師会より、若手医師活動報告の原稿依頼を頂戴しましたが、特別に医師としてグループ活動を行っているわけではないため、ありきたりな内容ではありますが、離れた場所であっても、母校の医局との繋がりを保ちながら、これからも日々研鑽し、札幌での腎臓病の診療へと還元していきたいと思っています。

